

都道府県名	佐賀県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	諸富町立諸富北小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	21
児童数	74	60	55	62	68	63	2	384	

研究の概要

1. 研究主題

<p>生き生きと学ぶ児童を育てる算数科指導の研究          - 基礎・基本の確かな定着を目指した指導法の改善 -</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

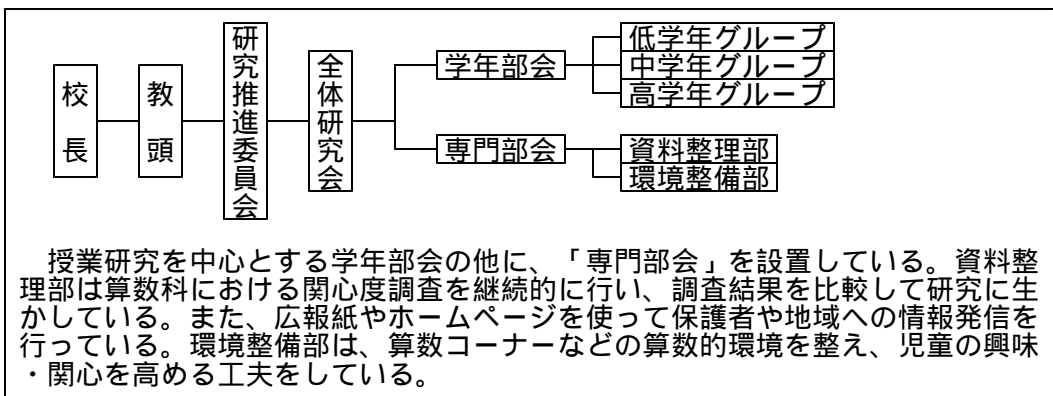
<p>全学年・算数科          本校は平成13年度から「生き生きと学ぶ児童の育成」をめざして算数科を中心に研究を行ってきた。昨年度は、小集団学習及び自己評価活動の深化を主な柱として研究を進めた。また、教育相談的配慮を生かした学習活動においては、個人カルテの作成をするなどして、一人一人の個性に応じた支援の仕方を工夫する授業実践を行ってきた。その成果として、基本的な能力、つまり「数学的思考力」はついてきたと言える。しかし、基礎的な技能、つまり「知識・理解」「表現・処理」の能力を高める必要性が課題として挙げられた。この課題を解決するためには、子ども一人一人の実態に応じたチームティーチングや少人数授業を取り入れるなど指導形態の工夫も必要となってくる。          以上のことから、算数科の指導を中心として「生き生きと学ぶ児童の育成」をめざした研究を深め、特に、基礎・基本の確かな定着を図るための指導法の改善に取り組むこととした。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ          小集団学習と自己評価活動を取り入れた指導法の改善</p> <p>研究の見通し          少人数やTTの授業において子どもの興味・関心を高める算数的活動を取り入れ、発達段階に応じて小集団学習と自己評価活動を問題解決過程に位置づければ、より確かな基礎・基本の力が身に付くであろう。</p> <p>研究の内容・方法          児童の発達段階に応じて「ペア」「グループ」「バズ」の小集団学習を取り入れる。          自己評価活動においては、項目ごとの評価と一言感想に加え、より客観性をもたせるための適応問題を行い、自己評価力の向上を図る。          方法については以下に示す。          (1) 児童の共感的理解を基本とし、研究主題、課題、仮説に至るまでの共通理解を図る。          (2) 児童の実態に応じた少人数授業を取り入れ、その効果を授業により検証する。          (3) 小集団学習と自己評価活動の効果的な取り入れ方とその効果を授業により検証する。          (4) 講師招聘、各種研究会への参加により、研究を深める。          (5) 到達度診断検査、関心度調査などにより、児童の変容を捉え研究の効果を探る。          (6) 小・中連携を図り、意見交換を密にする。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ TTや少人数授業における小集団学習と自己評価活動の効果的な取り入れ方の工夫</p> <p>研究の見通し 児童の発達段階や学習の内容、グループ編成を考慮して、小集団学習を効果的に位置づけ、自己評価活動の内容を含めた見直しを図れば、学習がより主体的となり、確かな基礎・基本の力が身に付くであろう。</p> <p>研究の内容・方法 グループ（習熟度等）に適応した学習過程の見直しを行い、統合を含めた検討をする。 小集団学習においては、発達段階や学習の内容、グループの実態を考慮し、その位置づけや取り入れ方に柔軟性をもたせる。 自己評価能力の向上を図るため、自己評価項目や方法の見直しを行う。 方法については以下に示す。 (1) 児童の共感的理解を基本とし、研究主題、課題、仮説に至るまでの共通理解を図る。 (2) 児童の実態や学習の内容に応じてTTや少人数授業を取り入れ、その効果を授業により検証する。 (3) 小集団学習と自己評価活動の効果的な取り入れ方とその効果を授業により検証する。 (4) 講師招聘、各種研究会への参加により、研究を深める。 (5) 到達度診断検査、関心度調査などにより、児童の変容を捉え研究の効果を探る。 (6) 小・中連携を図り、意見交換を密にする。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

5年生（66名）のアンケートによると、多くの児童が少人数で学習したことを好意的に捉えていることがわかる（90.9%）。少人数だと「落ち着いて学習できる（75.0%）」、「わからないときにすぐに聞ける（53.0%）」、「自分のペース（はやさ）で勉強できる（43.4%）」と感じている児童が多い。授業中に質問する児童も確実に増え、今後の学習に少人数授業を取り入れることを希望している児童も多い（78.8%）。今後も児童の実態、指導内容を考慮して積極的に少人数授業を取り入れていく必要性を感じる。

仮説の一つの柱である小集団学習については、児童の発達段階に応じて「ペア」「グループ」「バズ」の学習形態を取り入れた。このことにより、児童の考えが広がり、練り合いが深まるという効果が見られた。これは、基本的な能力である「数学的な考え方」の向上につながっていると考えられる。

仮説のもう一つの柱である自己評価活動については、児童は項目ごとの評価と一言感想による評価によって、その時間の学習をしっかりと振り返ることができるといった効果が見られた。教師にとっては児童の理解についての情報を得た

り、自身の反省材料にもなったりして次時からの学習活動に生かすことができた。また、今年度は学習過程の「振り返る段階」にその時間の学習内容が身に付いたかどうかの客観的な判断材料とするため、練習問題を取り入れた。このことにより、児童の自己評価能力の向上につながり、教師の児童理解にも有効であった。さらに、「表現・処理」の技能の定着も図られた。

小・中連携においては、中学校での授業参観、研究協議等を通して職員の研究意識が高まるという効果が見られた。

## 2. 今後の課題

次のことを踏まえながら、T Tや少人数授業を取り入れ、基礎学力の向上を図りたいと考えている。

- ・学習内容の理解度を見るための適応問題を取り入れたことにより、時間的に余裕がなくなるということがあった。このために学習過程の各段階における時間配分の工夫の必要性という課題が明らかになった。
- ・これまでは主に発達段階を考慮して小集団学習を取り入れてきたが、今後はそれに加えて学習内容や児童の実態も十分考慮した小集団学習の取り入れ方についての研究を深めていく必要があると考える。

### 学力等把握のための学校としての取組

C R T 検査・・・学力の状況を見るため、2月に国語、算数の2教科について全学年を対象に行っている。  
算数アンケート・・・算数の学習に関する調査を1学期と2学期に行っている。これは学力そのものの調査ではないが、領域別の好き嫌いや学習形態についてなど、児童の実態を把握するためにしている。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会

- ・第1回
  - ・日時：平成15年10月31日14時5分～
  - ・場所：本校、対象：教職員、保護者、学校評議員等
  - ・目的：公開授業、分科会（2年、4年）を行い研究の成果を発表する。
- ・第2回
  - ・日時：平成16年1月30日13時50分～
  - ・場所：本校、対象：教職員、保護者、学校評議員等
  - ・目的：公開授業、分科会（3年、5年）を行い研究の成果を発表する。

T Tや少人数授業の様子や研究会の内容を「学校便り」や「さんさんだより（算数科の学習に関する内容）」を定期的に発行したり、学校のHPに掲載したりしている。

平成15年10月29日、諸富町教育振興会研究集会において、本校の取組について報告をし、町内の小・中学校と意見交換を行った。

- 
- 【新規校・継続校】     15年度からの新規校     14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下                             7～12学級  
                                13～18学級                             19～24学級  
                                25学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                             T Tによる指導  
                                一部教科担任制                         その他
- 【研究教科】             国語                             社会                             算数                             理科  
                                生活                             音楽                             図画工作                     家庭  
                                体育                             その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】     有                             無